

3Dデータで研究を

軍艦島劣化把握に効果

長崎市は18日、端島(通称・軍艦島)の上陸20万人記念講演会を長崎県立山王十目の長崎歴史文化博物館で開き、市民や県内外の軍艦島研究の関係者ら約100人が3D技術を用いた研究発表などに耳を傾けた。

世界遺産登録を目指す軍艦島の研究の成果を広め、研究者のネットワ



3D技術を用い、軍艦島の研究発表をする松田センター長(左)と長崎県立山王十目歴史文化博物館

上陸20万人記念講演会

ーク構築に役立ててもらおうと企画。長崎県大学院工学研究科インフラ長寿化センターの松田浩センター長と東京電機大建築学科の阿久井暁孝名誉教授を講師に招いた。

軍艦島の観測を続ける松田センター長は、昨年にも2回実施した調査結果を基に報告。3次元データを使えば、現存する建物を忠実に再現し劣化状況の把握や予測ができると説明した。さらに情報収集を進めれば、立ち入り禁止区域の建物内部を画像で再現でき、島に行かなくても魅力を楽しむことができると強調。一観光資源として活用すべきだと提案した。

阿久井名誉教授は文化財としての軍艦島の評価について講演した。

(東村亮)